

◆第7週（2月14日（月）～2月20日（日））

静岡県の団体から依頼されていた浜松・沼津・静岡地域での講演が、第6次新型コロナウイルス感染症によって6月以降に延期されることになった。静岡県や新潟県のように東西に長い県は多いが、そのため県単位で依頼される講演はだいたい3ヶ所の会場が必要なため日数も増えることになる。

今週の前半の予定を新たに組み直し、月曜日と火曜日は顧客企業とのオンライン会議に2日続けて出席する。いずれも2時間の会議だが、最近ではweb会議もコンサルティング手法の1つになっている。ただ、「服の上から背中を搔いている」あるいは、「搔いてもらいたい場所の周辺を搔いている」気がしていることも確かだ。そのため、事前の資料の準備がより重要になってくると言えるだろう。

木曜日は、定期的に行っている顧客企業の新分野への事業戦略のための研修会である。今日は参加者にどのくらいの知識レベルがあるかについて、試験問題を作成して解答してもらうこととした。そこそこのレベル差があることがわかる。講師としては、参加者の知識と経験、さらにはその人の考え方などを知っておくことは重要なポイントでもある。

金曜日の夕方に3回目の新型コロナウイルスの予防注射を受ける。本人としては、インフルエンザの予防注射もしたことがなかったうえ、かかったこともなかったため受ける気はなかったが、今回は第三者に対する影響を考えて昨年7月に2回連続して受けておいた。

顔なじみの医師からは2～3日は気を付けください。特に明日は自宅で静養された方が良くと言われたが、土曜日はソフトボールと野球の練習が予定されていた。無理しない程度に参加して、そのまま大阪に出張となる。

月曜日の大阪講演が朝から始まるので、前日入りだ。1回目も2回目も何の変化もなかったが3回目の注射の後も、今のところは全く変化がない。3回目の後は副反応が起こる確率は80%と言われているだけに、何も効いていないのかもしれないと不安になってくる。

今週の特筆は、やはり北京五輪の女子フィギュアだろう。悲劇、不遇、不条理、不運という言葉が浮かんでしまった。ジャンプ混合の高梨選手のケースも同様だが、考えてみると、世の中にこうした言葉があるということはそれなりにあり得るとも言える。「全ての出来事には意味があると言われている」という他力で考えるのではなく、「自分自身それぞれがこの状況に意味があるように考える」ことの方が重要ではないだろうか。